



昭和大学病院

検索



昭和大学病院附属東病院

検索

発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院
発行責任者 昭和大学病院長 板橋 家頭夫
編集責任者 広報委員長 中村 清吾
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8
TEL: 03-3784-8000 (代表)



定年退職のご挨拶

～本年度をもって定年退職される先生方から

ご挨拶と医師人生を表すお言葉をいただきました～

昭和大学病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 **平野 勉** 教授

私は関連病院への出張や海外留学の期間を含めると 40 年近くの長きにわたり昭和大学病院および東病院にお世話になりました。感謝申し上げます。近年糖尿病は激増し国民病の観があります。当院でも膨大な数の患者さんを診療させていただきました。その経験から学んだことは

糖尿病は基本的に良性疾患である

ことです。悲観することはありません。合併症をどのようにしたら無理なく防ぐことができるか、私も患者の一人として考え続けたいと思っています。



大学病院でしかできない医学研究を絶え間なく続けてきました。臨床研究は決して一人ではできません。私は多くの研究者と共同研究をする機会に恵まれました。その中で循環器内科や検査会との共同作業で生まれたのが「**超悪玉コレステロール**」の測定法です。今や世界中で使われるようになり、今後は昭和大学が中心になって保険適応取得を目指しています。在職中患者さんからは数多くの貴重な体験をさせていただきました。これを礎にさらに優れた臨床医になれるように努力いたします。

最後に医師人生を一言で表すならば「**昭和大学で働けて幸せ**」に尽きます。ありがとうございました。



昭和大病院 放射線科 **後閑 武彦** 教授

ごかん たけひこ

昭和大病院放射線科教授に就任してから14年間にわたり大変お世話になりました。至らぬ点が多々あったと思いますが、皆様のご支援、ご協力に支えられ、仕事に励む事ができました。



私の放射線科医としての人生はまさに **「学び続ける」**であったと思います。1980年4月に昭和大病院医学部を卒業して以来、40年近く放射線科医として診療を続けて参りました。急速な医学の進歩ということに関しては、他の診療科も同様ですが、画像診断の進歩は目覚ましいものがあります。常に新しい知識を得ていないと、標準的な画像診断のレベルから取り残されてしまい、検査・診断に支障をきたします。実際、過去40年の間に、画像検査の適応とその画像診断法が大きく変化した疾患・病態は少なくありません。これからも学び続けて、放射線医学の潮流に乗り遅れないようにできればと考えています。



昭和大病院 腎臓内科 **柴田 孝則** 教授

しばた たかのり



昭和大病院医学部を1979年に卒業し内科医としての第一歩を踏み出しました。以来40年間、皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。本学で **診療・教育・研究の道** を歩む中で多くの方々にご指導いただきましたが、それに相応するお返しができなかったかと甚だ心許ないところです。この度、腎臓内科学部門教授を定年退職いたしますが、臨床医を終えるわけではありません。この経験を今後の医療に生かすべく一層努力していきたいと思っています。





昭和大学病院 緩和医療科 **樋口 比登実** 教授



昭和 53 年麻酔科大学院に入学し、以後約 40 年の長期にわたりずっと昭和大学病院でお世話になりました。多くの先生方をはじめ、看護部・薬剤部・MSW・CE 室・各種検査室・栄養科・事務部の方々、いつも清掃して下さる方々など、多職種のスタッフの皆様を支えられ、今日まで昭和大学病院で医療に従事できた事を心より感謝致しております。厚く御礼申し上げます。有難うございました。



麻酔科医として医療に入門、その後ペインクリニック、緩和医療（緩和ケアチーム）と、一貫して痛み治療に従事してまいりました。若い頃に先輩から教えられた

『技術は身を助ける』を常に心掛け神経ブロックを学び、施行して今日に至っております。諸先輩の多くの言葉に助けられ、励まされて過ごしていた若い頃がとても懐かしく思い出されます。緩和医療科に異動後は「法に則り、比喩を用い、因縁を語るべし」・エビデンスに基づき、例え話を用いてわかり易く、原因・経過と今後起こりうることを説明するように心がけてまいりました。そして、多くの患者さんやご家族に、多くの事を教えて頂いたことを感謝しております。退職を前に、本院でペインクリニックとして、職人として過ごす事が出来た事をとても幸せに思っております。昭和大学から、変化しない本質的なものを忘れず、常に新しい変化を取り入れ、知識と技術を磨く努力を怠らない、素晴らしい医療者が多く育っていかれることを心よりお祈り申し上げます。



昭和大学病院 総合診療科 **齋藤 つかさ** 教授



このたび、2019 年 3 月末日をもちまして定年退職させていただくことになりました。振り返れば、昭和大学医学部を卒業後、第二病理学教室、第三内科学教室、循環器内科学教室、救急医学講座を経て最後は総合診療医学講座まで、34 年間という長きにわたり昭和大学で働かせていただくことができました。これもひとえに、これまでご一緒させていただいたすべての方々のおかげであると深謝いたします。



これまでの医師としての人生を振り返ると、ときにどう行動してよいか判断に迷うことがありました。若い頃は、周囲の状況に流され行動し、あとで後悔することも度々ありましたが、年齢を経るごとに、そのようなときには、なんのためにやっているのかを考えるようになりました。何を目的に医師として働いているのかと問うと、**『病んでいる人々の手助けをする』**ということが答えとして出てくるのです。そして、多少迷いながらも、それに沿って行動を取ると間違いがないということがわかるようになりました。これまでの後輩の方々との関わりで、「何のために」と目的を再確認することの大事さを、多少なりとも伝えることができたらと思っています。これからの昭和大学の発展ならびに皆様方のご活躍を心からお祈り申し上げます。

長きにわたり大変ありがとうございました。感謝申し上げます。

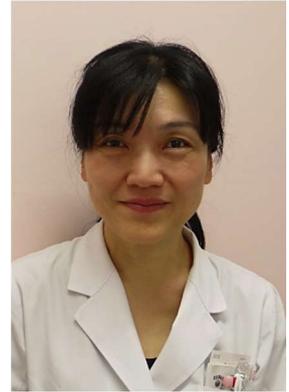


昭和大**学**病院 臨床試験センター薬剤師 **おくやま ひろみ** 奥山 裕美 先生

2010 月 4 月に昭和大学に異動し、今年で定年を迎える事となりました。

統括薬剤部に所属し、病院では乳腺外科の治験を担当しました。乳腺外科中村教授をはじめ医師の皆様、臨床試験支援センター及び関連部署の皆様には本当にお世話になりました。

また、薬学部では医薬情報解析学部門に所属し、加藤教授ご指導のもと、博士号取得にも至りました。充実した 9 年間を過ごさせて頂いた事に、心から感謝しております。今後も昭和大学で教育・研究に携ってまいります。昭和大学病院のさらなる発展を祈念し、退職のご挨拶とさせていただきます。



私の薬剤師としての医療人人生は、「この道より我を生かす道はなし、この道を行く」であったと思います。大学卒業後、企業の化粧品開発部門の研究職として、社会人人生がスタートしました。その頃は臨床で薬剤師が関わる状況はない時代でした。医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令が改正となるタイミングで、当時治験のモデル病院であった都立駒込病院に入職しました。そこでの乳腺外科の医師と乳がんの治験との出会いが、私の人生に大きな影響を及ぼすこととなりました。米国 MD アンダーソンへ留学する機会を得て、チーム医療を学ばせて頂き、帰国後は乳腺外科に所属、その後に異動した聖路加国際病院でも乳腺外科の臨床試験に携わり、患者さんと向き合いながら、多くの事を学ばせて頂きました。昭和大学では乳がんの臨床試験に携わりながら、研究を行い、論文を書く機会にも恵まれました。今後も、研究活動を続けていく環境を頂ける事に心から感謝申し上げます。



長い間

ありがとうございました。



「先天性心疾患」

（「生まれつきの心臓病」、「こどもの時からの心臓病」）

と言えば **昭和大学病院**

昭和大学病院の「小児循環器・成人先天性心疾患センター」では、

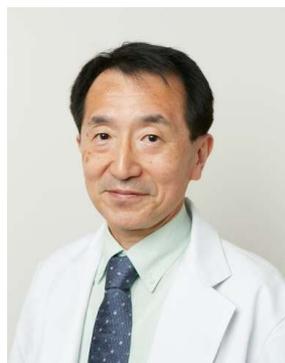
胎児～小児～成人までの先天性心疾患を対応しています。



小児循環器・成人先天性心疾患センター
診療科長 富田 英



循環器内科
診療科長 新家 俊郎



小児科
診療科長 水野 克己



産婦人科
診療科長 関沢 明彦

特徴1：胎児期からの診断・治療が可能です

生まれつきの心臓病が見つかった際は、分娩も含め産科、小児科と連携しチーム医療で治療にあたります。日本胎児心臓病学会の胎児心臓超音波専門施設として認定を受けており、産婦人科と連携して診療に当たっています。当センタースタッフによる精密検査を行い、総合周産期母子医療センター（産婦人科、小児科、小児外科）と連携して診療しています。

特徴2：移行期医療によるシームレスな医療が可能です

小児期に治療を行った患者が、成人期になった場合でも、循環器内科と連携協力し、継ぎ目のない医療が可能です

特徴3：充実した設備にて高度医療が可能です

昭和大学病院は「ハイブリッド手術室」、「新生児集中治療室」、「総合周産期母子医療センター」を有しているため、高度な医療の提供が可能です。

動脈管開存とは？

動脈管開存（patent ductus arteriosus：PDA）とは、生後間もなく自然に閉じるべき動脈管が閉じずに残ってしまう病気です。生まれつきの心臓病のひとつで、約2,000人に1人の頻度で見られます。他の生まれつきの心臓病である心室中隔欠損や肺動脈狭窄などと同様、日本においても高い頻度で見られます。動脈管開存があると、圧力の高い大動脈から圧力の低い肺動脈へ血液が漏れます。全身に流れるべき新鮮な血液の一部が心臓へ逆戻り（大動脈から肺動脈へ流れる）してしまいます。そのため心臓（左心房・左心室）や肺に負担がかかります。動脈管が太いほど流れる血液の量が多くなるため、負担が大きくなります。その場合は子供のうちに症状が出ることもあります。動脈管がそれほど太くない場合は、症状が出ずに気づくことなく成人まで成長することになります。

動脈管開存の治療

動脈管開存の治療の目的は、血管や心臓などの循環系を血圧の正常化、および内膜炎リスクの低減です。患者さんの年齢や動脈管の形と大きさによって治療法を3つのなかから選択します。①薬物治療②外科的手術③カテーテル治療。このうち、薬物療法は小さく生まれた赤ちゃんにのみ有効です。

当院では、「**アンプラッツァー動脈管開存閉鎖システムを用いたカテーテル閉鎖術**」を実施しており、胸部の皮膚を切って開くことなく、カテーテルを用いて閉鎖栓を運び動脈管開存を閉鎖します。エックス線装置で心臓を、心電図モニターで心拍を観察します。足の付け根から大腿静脈を穿刺し、カテーテルを挿入できる管を入れます。心臓カテーテル検査で動脈管の造影を行い、動脈管の形を映し出しサイズを測ります。測定結果をもとに適切なサイズの閉鎖栓を選択して使用します。

昭和大学病院での先天性心疾患に対するカテーテル治療

当科では新生児期から成人までの内科治療やカテーテル治療、不整脈に対するカテーテルアブレーションやデバイス治療を行っています。先天性心臓病に対するカテーテル治療、特に動脈管開存や心房中隔欠損の経皮的閉鎖、肺動脈狭窄や大動脈縮窄に対するステント留置などの高難度なカテーテル治療を実施しており、全国より多くの患者さんが来院されています。また、新しいカテーテル治療機器を日本に導入する際の治験実施施設となっています。

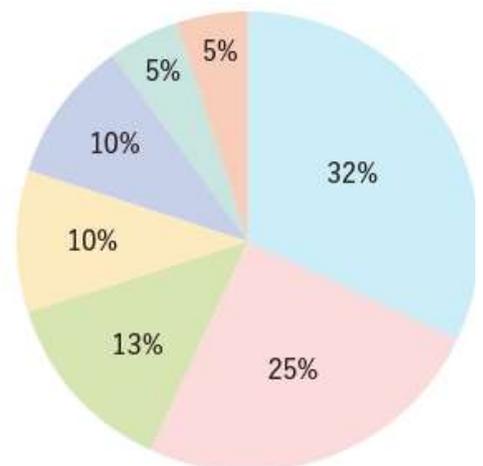
<カテーテル治療内訳>

<答えてくれたのはこの方>



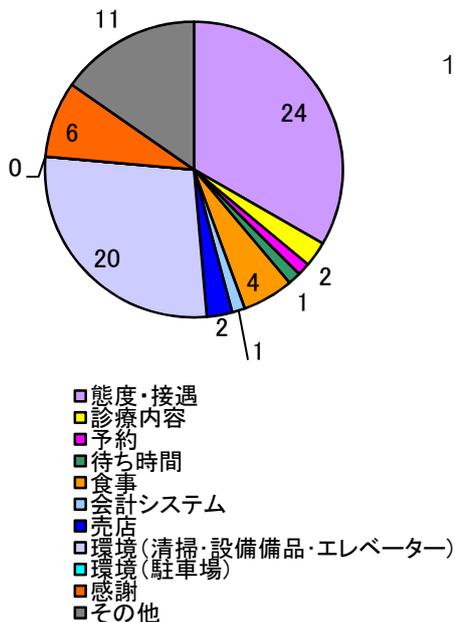
診療科長：富田 英

- バルーン血管形成術
- 心房中隔欠損閉鎖
- 動脈管閉鎖
- ステント留置
- 血管閉塞(コイル)
- 弁形成術
- BAS

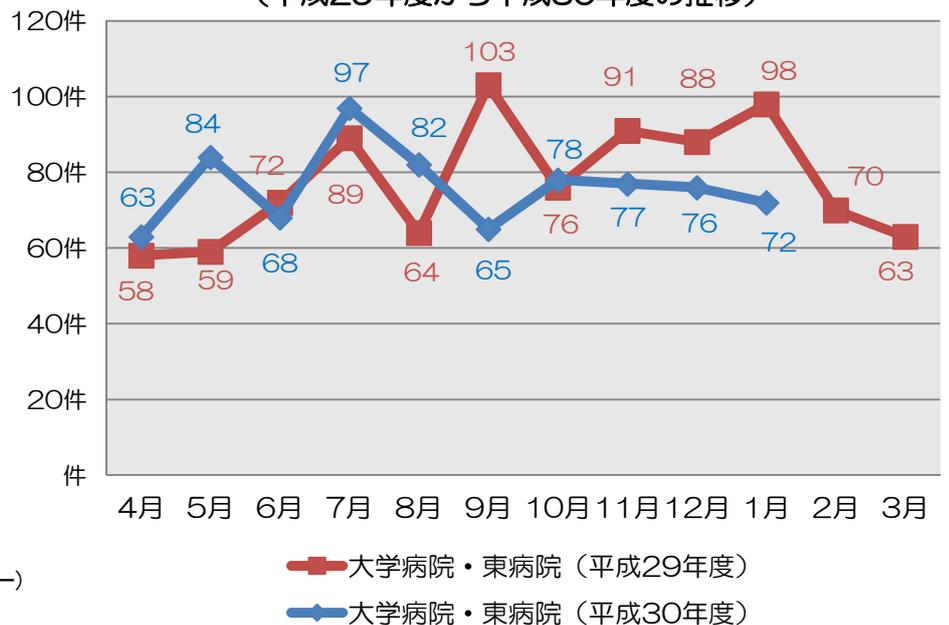


ご意見・ご要望	回答	回答部署
<p>今回入院して看護師さんの皆様がいろいろな事への受け答えが感じよく、非常に驚きました。昭和大学病院に入院してよかったです。</p>	<p>この度は貴重なご意見をありがとうございます。 今回のご意見は私たちにとって、とても身に余るお言葉と思っております。今後も今回頂いた言葉を胸に、あらゆる患者さんへ看護ケアの提供を行って参りたいと思います。 この度はありがとうございました。</p>	<p>看護部</p>
<p>本日放射線の治療をうけたものです。学生と思われる方が10人程度お入りになられたのですが、何をなさっていたのですか。連絡がありませんでした。</p>	<p>この度は貴重なご意見をありがとうございます。 当院は医療人を目指す学生の実習を受け入れており、今回は学生が放射線治療における職員の働く様子を見学に来ておりました。その際患者さんに不安や不快な気持ちを抱かせることになりました。 今後は学生等がいる際は一声お掛けします。貴重なご意見ありがとうございました。</p>	<p>放射線技術部</p>

平成31年3月掲載分
 ご意見・ご要望の内訳
 昭和大学病院・東病院総件数
 72件



平成30年度ご意見・ご要望の推移
 (平成29年度から平成30年度の推移)





【昭和大学病院第 92 回院内コンサート】

日 時：平成 31 年 3 月 23 日（土）17:00～17:45

場 所：大学病院中央棟 1 階ロビー

出 演：魔法の音浴セラピスト Junco さん

をお迎えいたします。

演 目：糸、LIFE～ありがとう、愛してる～、明日への手紙、

Over the Rainbow、やさしさに包まれたら etc

編集後記

整形外科 教授 ^{いながき} 稲垣 ^{かつのり} 克記

病院における「働き方改革」は臨床面だけでなく教育・研究の側面もあるため、全国の大学病院ではまだ混沌とし、収束の域に達しませんが、本学では全国に先駆けいち早く改革を取り入れたこともあり、全国の大学病院にとってモデルケースとなっているようです。

今月は入学試験、学位授与、そして永年ご勤務された先生の最終講義の準備が粛々と進んでおります。本号では糖尿病・代謝・内分泌内科の平野教授、放射線科の後閑教授、腎臓内科の柴田教授、緩和医療科の樋口教授、総合診療科の齋藤教授、臨床試験支援センターの奥山薬剤師のお言葉を頂きました。6名の先生方はまだまだ大変お元気で若々しい先生ばかりです。引き続き本学と大学病院への暖かいご指導とご鞭撻をお願いしたいと思



昭和大学病院・附属東病院の理念

- 患者本位の医療
- 高度医療の推進
- 医療人の育成

昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- 患者さんと共にチーム医療を実践する。
- 特定機能病院及び地域の基幹病院として高度急性期医療を推進し、質の高い医療を提供する。
- 教育病院としての機能を充実し、質の高い医療人の育成を行う。
- 人間の尊厳及び人権を守りつつ、高度な臨床研究を実践する。

ご意見・ご要望につきましては、メールアドレス：tayori@ofc.showa-u.ac.jp までお願いいたします。

病院広報委員会委員： 磯飛 雄一、稲垣 克記、大嶽 浩司、五藤 哲、佐藤 久弥、白井 敦、鈴木 隆、鷺見 賢司、戸塚 るり、富田 英、中村 綾子、中村 清吾、平野 勉、水庭 隆史、結城 祐磨、吉田 仁、渡邊 聡（50音順）